

平成31年度 第4回東大和市まち・ひと・しごと創生会議 会議要録

会議名	第4回東大和市まち・ひと・しごと創生会議
開催日時	令和2年2月15日（土）午後3時から午後5時まで
開催場所	会議棟第6会議室
出席者	（委員）牧瀬委員（座長）、小島委員（副座長）、目黒委員、富田委員、水上委員、高橋委員、大塚委員、赤坂委員、斉藤委員、五十嵐委員（代理）、石田委員 （事務局）田代企画財政部長、星野企画財政部副参事、雨田主任
会議の公開・非公開	公開 傍聴者 2人
会議次第	1 開会 2 座長あいさつ 3 委員あいさつ 4 議題 (1) 東大和市ブランド・プロモーション指針及び東大和市ブランド・プロモーション指針アクションプランの延伸案について (2) まち・ひと・しごと創生総合戦略 進捗状況（平成30年度）について (3) まち・ひと・しごと創生に関する意見交換

会議の結果及び主要な発言

(1) 東大和市ブランド・プロモーション指針及び東大和市ブランド・プロモーション指針アクションプランの延伸案について

事務局より、議題（1）について説明した。

委員：

ご質問・ご意見があればお願いしたい。

委員：

いただいた資料を一通り拝見した。趣旨が、上位計画との整合性を図るということは、必要な措置であるので、引き続き進めることに問題はないと思う。

従前の議論を踏まえた内容のものであると思うが、大事なことは生産年齢人口の増加が目的であるということ。各自治体の中で同じような施策が展開されている中で、生産年齢人口の争奪戦という地域間競争を勝ち抜くためには、ターゲットを明確にする必要がある。本市の場合は、30代の子育て世代をメインターゲットとしていくことにしているが、そのメインターゲットに対して他の市区町村が行っているものとは異なるものを行い、差別化をしていく。本市の強みを生かしたオリジナリティの施策を展開していくのが大事だと常々考えている。

先日、PDGの最終発表を拝見した。若い方々の発想に他市にない発想も含まれている。本市独自の施策だと思うので、PDGに非常に興味を持っている。

資料3についてだが、見てみると他市にない本市独自の様々な施策が実行されている。これは、高く評価してもいいのではと思う。せっかくこれだけの施策を展開しているのだから、その成果を具体的な数値で検証することが大事だと思う。

市制50周年の事業についてだが、どのような計画があるのか、計画をする予定なのか。教えてほしい。私見だが、単年度事業としてではなく、将来に継続するレガシーとなるような事業ができないものか考えている。それには、市民参加型の行事もあるのかと思う。

過去に、多少関わったことがあるもので、例を申し上げますと、全国に国分寺があると思う。近くに国分寺市もあるが、国分寺がある全国の市町村が年1回、市長が集まり、歴史的事実のシンポジウムをやったり、地域の活性化にいかにかかしていくかということをやったりしてい

る。私も参加したことがある。

府中市には、国府があった。全国に86くらいの国府が所在していた。国府所在地の市長が集まり、歴史を語る会として、講師を呼んで講演会をやったり、地域の活性化にどう生かすかということで、年1回各市の持ち回りでサミットを開催してきた。そこで、当市で言えば、例えば多摩湖がある。その多摩湖を観光資源や地域の活性化に生かすような形で「湖サミット」。そして、狭山丘陵や多摩丘陵等、丘陵もいろいろあり、そういった丘陵を持っている全国の市町村が集まって、「丘陵サミット」も考えられないか。

また、変電所が、歴史的史跡としてこれから注目をされるような手段や生かす手段はないか。広島では、毎年、平和慰霊祭を行っている。東京の広島遺跡として位置付けるのであれば、同じような形で変電所の歴史的な遺跡を生かせないか。例えば、広島市、長崎市と提携していく。戦争遺跡が残っている市町村の市長が集まり、年1回イベントを開き交流を図る。地域の振興を進める。これを毎年続けられるようにしていくと、市制50周年記念の大きなイベントとして、レガシーとして残していけるのではと思うので提案する。

このように全国の市長さんが集まる事業を行うと必ず経済団体の方も一緒に来てくれる。そこで、地域の経済団体の方と交流を図れるうえに、市民の方も強く関心を持つので、講演会やシンポジウムに市民の方が来る。そして、市民の方々が講演やシンポジウムでの話を聞くことで、自分の市にはこういう素晴らしい遺産があるのか、こういう素晴らしい場所があるのか。というような、気づきが生まれ、自分の住む市への愛着心がわく。そこで、市制50周年記念事業にどのような事業の展開を予定しているのか。現時点でのお考えを聞きたい。

事務局：

市制50周年の事業も担当しているが、詳細な資料を今、手元に用意していないので、簡単に申し上げる。大きな事業として、三つある。一つ目が式典。二つ目が実施事業。三つ目が広報・PR。

一つ目の式典は、式典の中で子ども・子育て憲章と健幸都市宣言とを發表させていただく予定。子ども・子育て憲章は、子どもと大人の約束というかたちで発表する。健幸都市宣言（けんこうとしせんげん）では、今後、健康寿命を延伸するためにプロジェクトを行っていく予定である。

二つ目の実施事業の中に、平和市民のつどいがあるが、昨年度のPDGの提案の中であった、変電所を活用したプロジェクションマッピングについて、内部的に進めている。昨年度のPDGメンバーの提案が実現する予定である。他に、現在も行っている事業に対し、市制50周年の冠を付けていく。あと、NHKのラジオ体操についても都立東大和南公園の方で実施されることになった。他にも内部的に検討している事項もあり、まだ申し上げられないこともある。

また、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会との連携も検討している。

委員：

宣言や憲章は、ぜひやって欲しい。これは、知名度のアップを図るのに、とても大きなチャンスになる。周辺市町村や全国に広がるようにチャンスを生かせるよう工夫をしてほしい。

事務局：

来年度の予算は、来週から開催される議会で可決されてからになるので、今、市はこういうことを考えているということで、ご理解いただけたらと思う。

健幸都市宣言の幸（こう）は、幸せの字を当てている。憲章や宣言は、それを作ることを目的にするのではなく、その後、どういう施策を展開していくか。また、継続していくことが大事であるので、そういう気持ちを持って進めていく。

委員：

他にいかがでしょうか。

委員：

委員がおっしゃった市制50周年に何かレガシーをとというのは、大賛成。

例えば、旧日立航空機株式会社変電所のような戦災遺構は、実は東大和市だけでなく、他の自治体にも結構ある。大阪の吹田市だったか。変電所と同じように空襲の跡を残す遺構があり、市ではそれを大切に守って、平和の大切さ、戦争の悲惨さを伝えている。今年、市制50周年ということで、大きなイベントを行おうとしている。他にも、銃弾が残る痛々しい戦災遺構は、広島市・長崎市だけでなく、ものすごく大事に残している自治体は多い。これは、言い出した方が勝ちではないかと思う。先にネットワークを作る。東京だから集まりやすいので、やる価値は十分にあり、レガシーになると思うため、委員のご意見には賛成である。

アクションプランの中のシビックプライドの醸成についてだが、アクションプランを変えてほしいという意味での意見ではなく、アクションプランの一つの見方として、参考までに申し上げたい。特に、子育て世帯のお母さんたちの会話、他の自治体に住んでいるお母さんの会話の中でなぜそこに住んだのという話を言われたときに、「ええっ。知らないの。ここはこういうものがあるから、私はここに来たの。」と自慢して言えることが、シビックプライドの醸成にもものすごく役に立つ。私は転勤族であるが、通勤に便利とか、仕事の関係で住まいを選ぶというのでは、シビックプライドにつながらない。今、新型コロナウイルスや災害等があり、そういうときに、子育て世帯、幼児に対して一番避難所の手厚いところが東大和市であるとか。備蓄関係が周辺都市と比べて、他ではまねることができない位の備蓄量があるとか。子育て世帯が災害に対する危機意識が高まっているとき、避難所への関心が高まっているときに、行政はこうやって安心・安全を準備していると情報発信のための材料を与えて欲しい。一度材料を与えれば、口コミで広まっていくし、他の自治体に対する強力なアピールになっていくと思う。

来年度予算案の中で、熱中症対策があったと思うが、それよりもこれはすごいという安全対策を市民に発信して欲しいと思う。今年は、まさしく良いタイミングだと思う。

事務局：

昨日の来年度の予算のプレス発表で、避難所も兼ねている小中学校の体育館全校にクーラーを設置すると発表した。財政状況は厳しいが、全部をいっぺんにやるということ、PRしている。

委員：

震災関連の備えであるので、これは声を大にして自慢していいことだと思う。3.11のときも、熊本地震のときも、震災関連死というのが一番多かった。直接死に匹敵するくらいの数の方が、亡くなっている。避難所のことを想定している施策は、ものすごく大事なことだと思う。

委員：

シビックプライドについては、相模原市で条例を作っているところである。できれば、全国初の条例になるということで、動いている。相模原市は、シビックプライド推進部という部局をこの4月に作り動かそうとしている状況である。

他に、ご質問、ご意見、ご要望はどうか。

委員：

いくつか気付いたことがある。商工会において、3市（東大和市、東村山市、武蔵村山市）で連携をして情報交換を行っている。武蔵村山市については、令和2年度、観光協会を立ち上げるという情報がある。多摩都市モノレールの延伸の件もあるので、ごく当たり前の流れだと思う。

モノレールの延伸に当たり、当市への影響はどうかということを考える。モノレールの延伸の件で、東大和市、武蔵村山市、瑞穂町の3自治体でモノレールの会社に行くことがある。モノレールの社長がおっしゃるには、町田はすでに先行して事業を行っているとのことである。

また、最近、西武園遊園地で動きがあり、力を入れようとしている。更に今、多摩湖の堤防が整備されており、土手の道路を整備している。この流れを市内で見ると、芋窪のところで流れがストップしているように見える。これが北側に延びていき、波及していくと、道路関係の整備も進むと思う。そのため、多摩湖で何か一つ手を打った方が良いように思える。東大和市も先を見越して、やっていかないといけないと思う。市民部の産業振興課で、観光部門について努力をかなりしているが、観光協会という面から見ると遅れを感じる。

カシオのビルを解体しているが、あの跡地利用について何も計画がない。非常にいい立地のところである。民有地のため、行政から要望は出せないと思うが、市制50周年のレガシーという中で、東大和市はカシオ創業の地である。何か出来ないか検討してほしい。

また、湖畔地区が、分筆ができない関係から、地価が落ちている。コミュニティタクシーが湖畔の方に走るの、長寿社会の中にあつていいことだと思うが、このあいだの土砂崩れもあり、危険地域となると資産価値の問題が出てくる。東大和市は、北側と南側で資産価値にも違いがある。モノレールの件を含めた中で、北側地区にも大勢の方にいらしていただき、活性化につなげるのが良いと思う。

事務局：

大きなビジョンが必要だと考えている。一度決めたことをずっと同じように繰り返しては、身動きが取れなくなることも分かっている。来年は、8号線（湖畔通り）のところを点検して、皆さんに安心して住んでもらえるようにしたいと考えておるので、皆様のご協力をお願いしたい。

委員：

国土強靱化というものがあるが、東大和市はまだ調整中とのことであるので、また情報が入り次第、情報提供を行う。他に何か。

委員：

1点細かいことであるが、質問がある。資料3 P.8 ②ターゲットに向けた情報発信とあり、インターネットを活用した広告とあるが、数値の部分は変わったのが分かるが、この部分はどうなっているのか。未だに、出生率NO.1のままになっている。インターネットに関する情報については、ちょっとでも古いと思ったら、変えると良いと思う。作業をどのように進めているのか、確認したい。

事務局：

確かに、ここは古い状況になっている。次の議会で予算が通れば、ここは微修正をさせていただく予定。市長会の助成金を使った事業を来年度も行う予定であるが、事業を委託する先の候補として広告代理店が上がっている。そこと連携を取りながら情報発信をする取組を行っていく予定。

委員：

他にどうか。

委員：

資料2 ブランド・プロモーション指針を見ていて、P.9の市の強みが記載してある。市に着任して、だいたいつが、市内にいる者にとっては納得のものが並んでいる。しかし、市外の人を呼び込むという観点から見ると、イベントの名称や地名等が書かれているのみであるので、外の人からは内容が分からない。市外から人を呼び込むには、著名人、キーマン、名誉市民等が考えられるが、もう市制50周年の点から検討しているかもしれないが、その人をお願いをして大々的にプロモーションを検討してはどうか。

事務局：

市制50周年記念事業のために、著名人に声替えをしようと考えている。しかし、プロダクション関係や予算の関係もある。そうであるとはいえ、これをきっかけにつながりができるようになればと考えている。市制50周年記念事業に当たっては、色紙やビデオメッセージ等をいただけるような取組ができればと考えている。

委員：

相模原市では、全国的な有名なバンドにお声掛けをした。地元の高校出身であり、ちなみに弊学の出身でもあり、お声掛けをしたら、OKが出て、今いろいろ連携してやっている。

著名人は、本人からOKが出て、事務所NGが出てしまうこともあるので、考慮して動くが良い。

委員：

委員のお話で、市制50周年の式典を行ったり、事業を行ったりして、何か残していけるものがあるという点についてであるが、式典中に発表を行う予定である子ども・子育て憲章についてお話をしたい。

子ども・子育て支援会議にも委員として参加しており、子ども・子育て憲章について、子ども・子育て支援会議からの選出委員として携わっている。市制50周年の式典に向け、子ども・子育て憲章（子どもと大人の約束）について話し合いをしながら進め、やっとここで形になってきた。憲章を市制50周年の式典で発表をするというお話が来てから、委員同士で半年以上話し合い、また、小学校・中学校からそれぞれの代表の生徒を集め、選任された大人である委員と一緒に会議を開き、こういう文章はどうだろう。こういう約束があったら、子どもたちにも分かりやすく守ることができるか等。数々の話し合いを重ねやっと形になってきた。事務局も大変苦労し、皆で作ってきた。

先日、パブリックコメントということで、市民の方から案について講評をいただいた。非常に残念なコメントや、厳しいコメントがあった。皆様、それぞれお考えがあるし、貴重な意見だと思ったり、いただいた意見で勉強になったものもある。ただ、コメントの中には、この憲章の案は「簡単に決めたのではないか？」というものなどがあったが、そんなことは絶対はないとお伝えしたい。私も、寝ずに宿題を重ね、事務局の人とやりとりをし、考えたもの。今、どのような案を作ったか、この場で発表はできないが、式典のときには発表を行うので、今のことをご理解していただいた上で、発表を見守っていただければと思う。これからの東大和市の未来を願いながら、作った憲章で、そういった思いがたくさん入ったものであるもので、どうか見守って欲しい。

事務局：

皆様のおかげで出来上がってきており、感謝している。今度の議会に議案として提出する。式典の中で発表ができるということで、誠意努力をしている。

東大和市は、市長が日本一子育てしやすいまちづくりを第一の施策としている。お子様が東大和市で産まれて育って良かったと思ってもらえるような施策を真剣に取り組んでいく。

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の関係でも、なるべくなら子どもたちが体験できるように考えている。更に、聖火ランナーについても、なるべくお子様にも参加してもらおうと考えている。

委員：

他にどうか。質問でもご意見でもなんでもどうぞ。

委員：

共働き子育てしやすい街のランキングで上位も取り、東大和市は子育て世帯に優しいまちであることは重々承知している。委員の立場からすると、アンケートにもあるように就業の場が少ないという声が強。難しいところがある。その中でも、何か情報共有を図り、対応をした

い。例えば、小平市は、子育て世帯のコミュニティが強く、そこから情報が発信されている。あわせて情報も集まってきており、情報の中には、保育や子育ての悩みなどもある。

仕事の情報についても、こういう仕事をやっている。とか、1週間のうち、2～3時間でこういう仕事があるんだよ。とか、子育て世代のコミュニティから口コミで広がっている。

東大和市にもそういったコミュニティがあると思うが、なかなかコミュニティの声を聞かない。東大和市が子育てに優しいというのが、徐々にコミュニティの中で広がり、口コミで広がっていくといいと思う。

事務局：

コミュニティということで、実際には、公民館にはママ・マルシェ等の若い世帯のつながりがある。他に、健康課では、健康づくり事業の一環として集まる事業で幼いお子さんが集まり、親御さんのコミュニティができています。東大和市には、様々なコミュニティがあるが、このコミュニティ全部で何かするというには、まだ力が弱いところもあるかもしれない。その点については引き続き検討をしていく。

委員：

戸田市役所が、子育てを対象としたアプリケーションを持っている。「toco ぷり」というが、戸田市は約13万人の人口であるが、そのアプリのダウンロード数は約1万2,000人。多くの方の方がアプリをダウンロードしており、アプリを中心にコミュニケーションも行っている。もし関心があれば、視察とか行ってみるといいと思う。どうも、母親同士のコミュニティが強いようだ。

「toco ぷり」には、力を入れていて、総務省の外郭団体から表彰もされている。始めたときは、登録者が500人くらいかと考えていたが、蓋を開けてみると約1万2,000人もいた。ちなみに、このアプリの費用は、約600万円。この後、更に維持管理費がかかってくる。そんな状況である。

委員：

特産品の開発や観光というのが一つの大きなポイントになると思う。

フォトコンテストがあるが、これを特産品や観光に結び付けた形でやれたらいいのではないかと思う。フォトコンテストは、二つの分野でやっているが、特産品や観光に何か結び付けたテーマを付けて、ネット発信とかしてはどうか。

創業支援ということで展開しているが、経済産業省、中小企業庁で、創業に興味がない方、ビジネスに関係がないと思っている方に、例えば、小学生から大学生までの学生、ビジネスに関りがないと思っている社会人等、自分でビジネスをやろうとは思っていない方を対象に全国的にでも活力が失われていくのではないかという危惧から創業機運を醸成するための事業を始めている。例えば、高校生にはビジネスグランプリという仕組みがあり、やっているところもある。また、小・中学生を対象に地元で働く方と交流を持つなど、地域の掘り起こしとともに、定住につなげていく。そういう流れを作り、うったえかけていけばいいのではないかと思う。

P. 8の市の強みのところに、手前味噌になるが、中小企業大学校を入れていただけたらと思う。中小企業大学校は、全国の商工会・商工会議所支援機関の方が集まっており、また、積極的に活動を行っているので、ぜひ強みの中に入れて欲しい。中小企業大学校は、全国に9つしかない。その中の1つが東大和市にあるので、ぜひ強みとしてほしい。せっかく、府中市から東大和市に移転したこともあるので。

事務局：

すでにお世話になっており、お礼を申し上げたい。

もし、可能であれば、学校名を東大和校等にして欲しい。東京都内で、東大和を冠するものが、そこまで多くないので、どこかに東大和を付けていただけると嬉しい。

委員：

全国の方がいらして泊まる場所は、東大和寮という名前である。9割くらいの方が、泊まりでいらっしゃるので、東大和という名前を地元を持って帰っているはず。

委員：

泊まった方に、東大和市の観光案内等を渡すことは、可能か。

委員：

今でも、寮にパンフレット、東大和市のPR冊子、茶そば等を置いている。なかなか売れてないと聞いている。積極的に売り込みまではしていないが、ご紹介はしている。

委員：

友好都市である喜多方市の方がよくいらして、東大和寮をぜひ使ってくださいと紹介していたが、最近使ってもらえていない様子がない。東大和寮はテレビがないので隣の立川市や東村山市のビジネスホテルに泊まっているという声を聞いている。大分県であるので、致し方ないところはあるが、テレビについてお考えいただけると幸いである。

川越は、あれだけのまちでありながら、宿泊施設がなく大変な様子。

東大和市では、ぜひ駅前にホテルを作る等も検討してほしい。

事務局：

宿泊施設の課題を委員にふってしまい恐縮だが、宿泊施設がないことについて、市も課題だと考えている。その中で、東大和寮でご協力いただき、泊めていただいていることにお礼を申し上げたい。

観光事業は、泊まってもらわないとお金を落とさないという側面もあるので、市も駅前にホテルをと働きかけを行っているが、今後も、宿泊の面においてもご協力をいただけるとありがたい。

委員：

駅前の開発に当たっては、ぜひ用途地域の変更についてもお願いをしたい。

委員：

特産品について、何か考えているか。どのように売込む等、考えているか。

事務局：

特産品の関係は、当市は、茶うどん、狭山茶、多摩湖梨などがある。

委員にお願いをしたいのが、当市でもふるさと納税を取り組んでいるが、返礼品には特産品や推している商品を出している。中小企業大分県を通じて、ぜひ全国に発信していただき、東大和市のこと自体にも興味を持っていただくことはできないかと、内部的に検討をしている。

まだ、内部的な案の段階ではあるが、こういう交流を通じて、全国に魅力を発信できたらと考えている。

委員：

横須賀市役所が、20年くらい前に携帯サブレを作った。サブレは、意外と安く作れるのだが、市主導で作っている。これが意外と売れている。皆様が持っている携帯は、実は横須賀市内の研究所で作られた。

東大和市も、サブレを作ってはどうか。東大と連携していることも生かし、東大和市の和を小さくして、「東大和サブレ」にして、頭が良くなるサブレとして売ってはどうか。横須賀市の携帯サブレは、国から賞をもらっている。ぜひ、東大和市でもサブレを扱うといいのではない

かと思う。

委員：

当信用金庫では、営業として8人の担当があり、東大和市の各地区を担当している。中小企業さんを中心に担当しているが、東大和市の特徴としては、地区によって売れる商品が全く違うことである。東大和市全域を担当しているという支店の構成から見えてくるところであるが、例えば芋窪、桜街道、南街の地区ではこの時期に教育ローンを買込もうという話をしたときに、獲得できる場所とできないところがある。あるいは、一年間を通してアパートのローンをご紹介しようとなったときは、上北台の立川市に近い方は契約できるなど、地区ごとに違いがある。そういうところかしても、地区ごとで抱える課題が異なっているのではないかと思う。未だに、信用金庫では、教育ローン、マイカーローン、創業支援融資を新規で獲得しようとノルマがある。しかし、地区ごとに差があり、皆が契約を取ってくることはできない。地区ごとに響くこと、響かないことがあるように感じる。どちらの市町村にもそういった事情はあると思う。

東村山市に50年近く生まれ育ったが、東大和市は東村山市と似通っていると思っていた。ちょっと前までは、所沢市が近いし、西武新宿線の特急も停車駅であるし、東村山市の方が勝っていると思っていた。最近では、西武拝島線の方が、きれいな車内だし、頻繁に列車が来るし、ものすごく栄えてきれいになったし立川市も近いしで、東大和市の方が勝っているように感じる。

(2) まち・ひと・しごと創生総合戦略 進捗状況 (平成30年度) について

(3) まち・ひと・しごと創生に関する意見交換

事務局より、議題(2)について説明した。

委員：

外部有識者意見のところと、ご自身がお話ししたことの趣旨が違っているというところがあれば、今でも、後日でもいいが事務局に伝えていただけたらと思う。

それを踏まえて、ここが違っているという意見や、PDGをご覧いただいた方からはPDGの感想をいただけたらと思う。PDGのことを情報共有出来たらと思うので、PDGのことを中心にいただけたらと思うが、どうか。

委員：

PDGの活動には、非常に興味を持っている。若い世代の発想に共感を覚えている。長寿社会のテーマである健康寿命の延伸の中で取り上げていたアプリを使った取組。ぜひ市で行ってみてはどうかと思う。ポイントを付けて、ゲーム感覚で行うということは、持続させる一つのポイントになる。アプリを使った同じような取組は、大手の企業であればどこでもやっているのではないかと思う。朝・夕の通勤時に歩くようにとか、休暇時に歩くようにとか。健康管理を人事上の評価に反映する企業もあるようである。市の職員の方であれば昇進に反映させるとかはどうか。まずは市から始めて、その効果を見ていくのもあるのではないかと思う。

二つ目の小学生の虫歯の治療をする方の割合が少ないというテーマがあった。その数字を見たが、不名誉な数字であった。そこで、疑問に思ったのだが、学校間で例えば校長会等で、治療される方の多い学校のデータや少ない学校のデータや平均のデータ等を共有する機会があるのかどうか。あるのであれば、そこに出席された校長先生等が自身の学校のことを振り返り、対応策、改善策等を考えるのではないか。もし、出席された上での数値であるとしたら、虫歯治療への改善に向けての姿勢が足りないのではないかと思う。逆にすでに、アプリで通知をしたり、通知文章を送って治療状況を回答してもらおう等を行っていた場合は、保護者の方が学校の要請に対して拒否をしている状況なのではないかと思う。どちらかに問題があるのではないかと思う。そのへんの実情を教えていただけたらと思う。

事務局：

虫歯については、歯科医師会とも毎回話をしている。学校に行く前のお子様については、東大和市は治療される方が多く、多摩26市において上位のところにある。ところが、小学校に入った後は、虫歯になっても治さずにそのままになってしまう。虫歯は、歯が痛いだけでなく、身体全体に及ぶとかなり強く注意喚起を行っている。その中でも治療をされない方が多いので、歯科の医療費を助成するという案や一部の学校で行っているフッ素洗浄の効果を分析し全校に広めていこうという案もある。

しかし、全校で行うには、財源上の課題もある。情報共有については、もちろん、学校間で行っている。しかし、学力の問題と同様に全校で差が出ている。学校及び保護者で同じ方向を向き、解決に向けていくものはないか検討している。

委員：

健康寿命の延伸というテーマを見たとき、シニアの方をターゲットにした政策を提言するのだろうと思っていた。しかし、実際は、30代～40代に向けたものと、小学生に向けた事業提案であり、両方の事業のターゲットに当てはまっており、東大和市の健康寿命は自分たちにかかってくるのだと驚かされた。

どちらも、すぐにでもやってほしいが、虫歯の方の歯磨きの時間に動画を流す等は、本当に今すぐにでもやってほしい。小学校2年生の授業参観で歯科医をお呼びして、親子でお話を聞く機会がある。そのとき、かなり強い口調で「お子さんの虫歯は保護者のせいですよ。」といわれた。そのときの授業参観の様子を見ていると、保護者はあまり出席していなかった。今の保護者は、こういった授業参観や保護者会にあまり出席をされないようである。出席をされないで、せっかくのお話が届いていないのではないかと考えながら、この政策提案を聞いていた。自分の子供も歯ブラシとコップを学校に持って行っているが、1学期の間使っているはずだが歯ブラシがとてもきれいで、開いてもいない。コップを見ると、底にほこりすらたまっていた。きっと学校では、歯みがきをやっていないのではないかと思う。もちろん家では歯磨きをやっているが、学校において集団で歯磨きを行うことも、大事だと思うので、親に歯ブラシの指導を行うことも大切だと思うが、子供に直接ビデオを見せたり、チラシを見せたりする等をぜひとも今すぐに行ってほしい。

委員：

昨年度及び今年度で、PDGの発表を見てきたが、東大和市の若い人の意欲や力を感じる報告会であり、これからも頑張ってもらいたいと思う。

1グループ目の発表は、ターゲットが30代～40代であったが、実際に健康について考える年齢を考えると、10歳ずらした40代～50代で考えた方がいいのではないかと思う。自分の子供が小学校に入り、自分の時間ができるようになったときに、なんとなく自分の健康について気付きが出てくる。30代は、子育てにいっぱいいっぱい、子供のことを優先しており自分の健康は二の次になる。10歳ずらせば、自分の健康を振り返る時間もあり、運動を行ったり、ヨガに通ったり等ができる時間もできるので、事業提案に対する参加率も上がるのではないかと思う。

2グループ目の発表は、いいところに着目をされたと思う。ポスターを作られていたが、デザインは良いが字が小さいので、もう少し大きくなると良い。ポスターの中の東京都の中で罹患率が第1位という表現は、とても衝撃があった。ここは、お母さんたちにも衝撃があるところだと思うので、もっと大きく書いた方が良く思う。そして、東京都の何市の中で1位の罹患率というもっと具体的な表現をすることで、お母さんたち自身がお子さんの虫歯対策をやらなくてはならないと、気付きにつながるのではないかと思う。フッ素洗浄の取組については、他県の様子をテレビで見たことがある。すごくいいなと思っていたので、やって欲しいと思う。学校によって時期が違うと思うが、6月に虫歯予防週間等がある。これを市報でも取り上げ、例えば大きく東京都第一の罹患率と大きく掲載し、もし予算があれば子供たちにはうまべのキャラクター入り歯ブラシ等を配り、子供たちの歯磨きへの意欲を高め、集団での歯磨きの習

慣を定着させていけたら、良いのではないかと思います。

委員：

全体の感想として、PDGの政策提言は楽しみにしている。金融機関でも10年後、30年後を見据えたところから取組を考えており、PDGの若い人たちが自分たちのまちの未来を見据えて政策提案を行うことは、市への影響を鑑みると良いことだと思う。

PDGの議題の中で、どうしても予算が出てくるが、10年後、30年後を見据えた点から考えると、今はクラウドファンディング等の資金調達の手法もある。せっかく若手が未来を見据えた提案を行っているのであるから、ぜひコラボの域を広げて実現に向けて進められたら良いのではと思う。

健康寿命については、金融機関においても、テーマになっているが、目標に向かって進めていくと良いことをたくさん生み出すので、ぜひ進めてほしい。

1グループ目の提案を聞いていて思ったことだが、禁煙の取組等にも踏み込めたら良かったのではないかと感じた。

2グループ目の提案を聞いていて思い出したのが、昨年の発表で出てきた偏差値の課題。その課題と同じくらい難しいものであるが、どちらも大事なものであるので、お母さんたちに伝えてほしい。しかし、今回の虫歯の罹患率は、かなり衝撃をお母さんたちに与えるものであるので、衝撃を与えすぎないところで伝えるが良いのではないかと思います。

委員：

PDGは、行政の中でも様々な課の方が集まり事業提案を行うものである。担当課を超えた事業は、行政の中では珍しいものだと思う。民間では、ワークシェアリング等の言葉もあるが、行政ではなかなか聞かない。人口減少社会において、行政のスリム化も課題になると思うが、PDGは一つの先行例になるのではないかと思います。行政は、事業を行う際に議会のチェックや各種の委員会でのチェックが入るが、すべてのことに細かく及ばないこともある。その中で、行政の中でPDGとして課を超えて、若手の人が課題解決に向けて政策を見直し、提案を行うことは良いことだと思う。PDGは、モデルケースになるような良い取組であると思うので、予算がないからということで事業を実現しないのではなく、実現に向けて進め、もし予算が課題であるのであれば、数年かけて行うなどし、事業化の実現につながられたら良いと思う。

委員：

資料4について、この後ご覧になってご意見があれば事務局の方にご連絡をお願いしたい。他に、ご意見はどうか。ご意見がないようであるので、事務局から事務連絡をお願いしたい。

事務局：

今年度も、ご多忙の中、ご出席を賜り貴重なご意見をいただきありがとうございます。

委員の皆様任期についてだが、まち・ひと・しごと創生総合戦略の期間と合わせ、平成31年度の任期でさせていただいていた。ここで、総合戦略を補正版として、2か年の延伸を行う。そこで、委員の皆様にも委員の期間を延長していただけたらと考えており、新年度に改めてお願いをさせていただけたらと思う。

事務局：

1月16日から2月14日まで、パブリックコメントを実施したが、その期間中にご意見はなかった。そこで、第3回の会議でご審議いただいた「まち・ひと・しごと創生総合戦略（補正版）」の内容で、策定の準備を進める。

委員：

本日の議題は、すべて終了したため、第4回東大和市まち・ひと・しごと創生会議を終了する。